

2025年度事業計画

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月 31日

公益目的事業

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・災害時支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業(以下、健診事業)

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚に関する情報を日本視能訓練士協会ホームページ(以下、ホームページ)に掲載する。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」ならびに3歳児健康診査視覚検査の重要性を啓発するポスターをホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を促す。
- (3) 3歳児健康診査眼科検査での眼科検査方法を解説した「3歳児健康診査における視覚検査マニュアル(第2版)」をホームページに引き続き掲載し(ダウンロード可能)、3歳児健康診査眼科検査の検査技術及び精度の地域格差を改善する。
- (4) 3歳児健康診査眼科検査における家庭での視力検査方法を解説した動画をホームページに引き続き掲載する。これにより3歳児健康診査眼科検査での異常検出精度を向上させる。
- (5) 成人以降に発症する眼疾患への注意を促すための成人版「目の健康チェックシート」として「あなたの目、本当に大丈夫ですか？」をホームページに引き続き掲載(ダウンロード可能)する。成人健診における眼疾患の早期発見・早期治療のために「目の健康チェックシート(成人版)」を各市区町村保健センターへ配布し、早期に発見すべき緑内障等の眼疾患予防への注意を促すための啓発活動を行う。
- (6) 第9回3歳児健康診査(視覚検査)従事者向け研修会を開催する。
2026年2月オンデマンドにて開催予定。
- (7) 超高齢化社会における中途視覚障害者の増加に伴い、質の高いロービジョンケアを提供するため、視能訓練士のロービジョンケアの知識技術を向上させる。
- (8) 国立障害者リハビリテーションセンターで開催される「視能訓練士ロービジョン研修会」に協力する。
- (9) 小中学生を対象にした文部科学省主催の児童生徒の全国近視実態調査研究事業の結果を活かし、社会全体で児童生徒の視力低下を防ぐための啓発活動を行う。
- (10) 国民の健康寿命の延伸のため地域包括ケアシステムへの参加を念頭に、実践事例の情報収集や実態調査を行い、視能訓練士が実施できる高齢者の視能管理への可能性を検討する。
- (11) 日本眼科啓発会議を中心とするアイフレイル対策活動事業に協力し、国民の目の健康寿命を延伸するための啓発活動を行う。

2. 広報事業

- (1) ホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行う。
- (2) ホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行う。
- (3) 6月第一月曜日の「視能訓練士の日」に関連する事業として、イベントを開催する(オンライン形式の予定)。
- (4) 協会ポスターとリーフレット、動画を会員や関連諸団体へ配布、案内して「視能訓練士」の名称および職務を国民に向けて広報する。
- (5) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上に努める。
- (6) 東京都眼科医会が主催するTokyo Eye Festival、東京ロービジョンサポートフェアに参加し、視機能に関するトピックスを来場者に紹介することを通じて、視能訓練士がQuality of visual lifeの向上に果たす役割を広くアピールする。
2025年10月4日(土) 5日(日)(予定)：会場 新宿駅西口イベント広場
- (7) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、来場者へ眼疾患の予防と目の健康を啓発するリーフレットの配布および視能訓練士を紹介し、眼保健衛生の普及・向上に努め、視能訓練士の職務を広報する。
2025年5月17日(土)：会場 東京都看護協会会館
- (8) 中学生・高校生を対象に、視能訓練士の職務内容を積極的に紹介し、リーフレットや動画などの広報媒体を活用することで、視能訓練士を目指す中高生の関心を高める。
- (9) 視能学を学び、視能訓練士を目指す学生に対してJACOメイト制度を活用し、在学中から臨床で必要とされる知識を養い、本協会の事業を紹介し協会活動への興味や理解を促す。
- (10) 養成校に理事を派遣して協会事業の理解を促す。
- (11) ホームページの拡充を行う。
- (12) 知名度向上・組織率向上のためのプロジェクトを継続し、イベントの開催や会員支援活動を行う。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行う。
- (2) 視機能の病態および視能矯正の実態調査を行う。
- (3) 5年毎に行う視能訓練士に関するアンケート調査および実態調査報告書の発行に向けた準備を行う。2025年12月までに実態調査報告書を発行する。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、就業傾向を把握する。
- (5) 日本視能訓練士協会定款施行規則を検討し、必要に応じて改定する。
- (6) 視能訓練士雇用状況調査、雇用推進に向け準備を行う。
- (7) 日本視能訓練士協会の知名度向上調査会議を行う。
- (8) 厚生労働科学研究費補助金(厚労科研) 障害者政策総合研究事業の「障害者自立支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデルの普及促進に資する研究」に研究協力団体として参画する。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互の協力について交流を密にする。
 - 1) 監督官庁(内閣府)及び関係官庁(厚生労働省・文部科学省)へ、協会の現況について連絡交流を図る。
 - 2) 研究諸団体(日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・日本眼光学学会・日本小児眼科学会・日本ロービジョン学会・日本視野画像学会等)と学術・技能向上の提携交流を図る。
 - 3) 国際医療技術財団・医療技術者団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会等に参加し、医療技術者団体間の交流を図り、医療技術者の相互理解を深める。
 - 4) 国民医療推進協議会へ参加し、参加団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行う。
 - 5) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上と超高齢化社会に適応したチーム医療の推進に向けた活動を行う。
- (2) 国外の視能矯正学分野・視能訓練士に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行う。
 - 1) 国際視能矯正協会と連携し、国際協力・貢献事業を行う。
国際視能矯正協会(IOA)理事会出席 (2025年6月24～25日 オーストラリア ブリスベン)
国際視能矯正協会(IOA)総会出席 (2026年 オンライン開催 日時未定)
 - 2) 国際学会発表支援プログラムを実施し、会員の国際学会での学術発表を支援する。
 - 3) 日本の視能訓練士の特色を活かした国際協力の方策、アフターコロナ時代に適応した国際交流・支援を検討する。
- (3) 国内の視機能に関係する団体および学会への後援を通し協力することで知識・技術の向上を図る。
 - 1) 第14回日本視野画像学会学術集会(埼玉)
第26回日本ロービジョン学会学術総会(広島)
第40回日本白内障屈折手術学会(JSCRS)学術総会(福岡)
第7回日本近視学会総会(大阪)
第95回九州眼科学会(福岡)を後援する。
 - 2) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力する。
2025年 眼光学チュートリアルセミナー未定
- (4) 地域ブロック会議を開催する。
 - 1) 地域との連携を強化する。
 - 2) 災害等緊急時における安否確認などの連絡網を強化し、必要に応じて早急に対処する。
 - 3) 各地域ブロック間の情報交換が密にできるように準備する。
- (5) 日本視能訓練士協会の戦略企画会議を行う。

5. 出版事業

- (1) 日本視能訓練士協会誌(学術論文集、第55巻)を雑誌として発刊し、電子ジャーナル(J-STAGE)を公開する。
- (2) 日本視能訓練士協会会報(第145号、第146号)を2025年10月と2026年3月に発行する。

6. 災害時支援事業

- (1) 東日本大震災を契機に発足した眼科医療活動「日本眼科災害対策会議」へ参加協力し、今後起こりうる災害を想定し、被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援する。
- (2) 「視覚障害者の災害に備えた連絡会議(仮)」へ参加協力し、今後起こりうる災害時に視覚障害者への支援活動に対し関連団体が連携し、より効率的な支援を行う。
- (3) 首都圏で大規模災害が発生した時にも公益目的事業を遂行できるような事務局環境整備を行い、かつ会員の安否状況や被害状況を把握し迅速に対応できるよう災害対策マニュアルの策定を行う。

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

- (1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行う。
 - 1) 第66回(2025年)学会開催準備
会期：2025年10月25日(土)～26日(日)
学会長：岡真由美(川崎医療福祉大)
名誉学会長：三木淳司(川崎医科大)
 - 2) 第67回(2026年)学会開催準備
会期：2026年10月24日(土)～25日(日)
学会長：中川真紀(帝京大学病院)
名誉学会長：井上裕治(帝京大)
- (2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行う。
 - 1) 第79回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催
会期：2025年10月9日(木)～12日(日)
会場：大阪府立国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪
テーマ：視能訓練士(CO)が知っておくべき、複視を伴う斜視の診断と治療
オーガナイザー：林孝雄(帝京大)、大北陽一(兵庫医大)
 - 2) 第80回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム開催準備
会期：2026年10月29日(木)～11月1日(日)
会場：国立京都国際会館、ザ・プリンス 京都宝ヶ池
テーマ：未定
- (3) 第79回日本臨床眼科学会インストラクションコースに「視能訓練」をテーマとしたプログラムを企画し、開催準備を行う。

2. 講習研修事業

- (1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行う。
 - 1) 第40回講演会開催準備 2025年6月2日(月)～6月30日(月)：オンデマンド開催
講演内容：「症例から学ぼう！網膜疾患の治療と診断における最新情報」
演者：近藤峰生(三重大学眼科)
 - 2) 第41回講演会開催準備 2026年6月(未定)

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行う。

1) 第23回研修会開催準備 2025年6月2日（月）～6月30日（月）：オンデマンド開催

研修内容：「小児の眼鏡処方」

2) 第24回研修会開催準備 2026年6月：未定 第41回講演会と併催

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施する。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2025年9月17日（水）～10月22日（水）

オンデマンド開催

技術日程 ※ブロック単位開催

北海道ブロック

8月31日（日） 両眼視・眼位・眼球運動検査

吉田学園医療歯科専門学校

9月28日（日） 視野検査

吉田学園医療歯科専門学校

11月9日（日） 視力・屈折検査

吉田学園医療歯科専門学校

東北ブロック

9月14日（日） 視力・屈折検査

東北文化学園大学

9月15日（月祝） 視野検査

東北文化学園大学

10月5日（日） 両眼視・眼位・眼球運動検査

東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

10月19日（日） 視野検査

帝京大学

11月30日（日） 視力・屈折検査

帝京大学

2026年1月25日（日） 両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

東京ブロック

10月19日（日） 視力・屈折検査

帝京大学

11月30日（日） 両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学

2026年1月25日（日） 視野検査

帝京大学

東海・北陸ブロック

11月16日（日） 視力・屈折検査

名古屋医専

11月23日（祝） 両眼視・眼位・眼球運動検査

名古屋医専

11月24日（月祝） 視野検査

名古屋医専

近畿ブロック

6月29日（日） 視野検査

大阪人間科学大学

7月6日（日） 両視・眼位・眼球運動検査

兵庫医科大学

8月3日（日） 視力・屈折検査

医学研究所北野病院

中四国ブロック

7月6日（日） 視力・屈折検査

川崎医療福祉大学

11月30日（日） 視野検査

川崎医療福祉大学

2026年2月15日（日） 両眼視・眼位・眼球運動検査

川崎医療福祉大学

九州ブロック

9月14日(日)	視力・屈折検査	福岡国際医療福祉大学
9月15日(月祝)	視野検査	福岡国際医療福祉大学
10月5日(日)	両眼視・眼位・眼球運動検査	熊本大学病院臨床医学研究棟

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅠ

2025年8月6日(水)～9月10日(水)	オンデマンド開催
-----------------------	----------

基礎教育プログラムⅢ

2025年11月8日(土)	視能矯正	機械振興会館(東京)
11月9日(日)	視能障害	機械振興会館(東京)
2026年2月7日(土)	視能矯正	CIVI研修センター新大阪東(大阪)
2月8日(日)	視能障害	CIVI研修センター新大阪東(大阪)

3) 専門教育プログラム

専門教育プログラムⅠ

2025年9月14日(日)～15日(月祝)	日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院
-----------------------	----------------------------

専門教育プログラムⅡ(視能検査学)

2025年7月19日(土)～21日(月祝)	TKP神田ビジネスセンター
-----------------------	---------------

専門教育プログラムⅡ(視能障害学)

2025年9月13日(土)～15日(月祝)	日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第一病院
-----------------------	----------------------------

専門教育プログラムⅢ

2025年6月18日(水)～7月9日(水)	オンデマンド開催
-----------------------	----------

(2) 視能訓練士臨地実習指導者講習会を主催する。(後援：全国視能訓練士学校協会)

I期 2025年6月23日(月)～7月20日(日)	講義 オンデマンド配信 グループワーク ライブ配信
---------------------------	------------------------------

II期 2025年8月25日(月)～9月21日(日)	講義 オンデマンド配信 グループワーク ライブ配信
----------------------------	------------------------------

III期 2026年1月19日(月)～2月15日(日)	講義 オンデマンド配信 グループワーク ライブ配信
-----------------------------	------------------------------

(3) 施設見学研修を開催する。

(4) 国民に眼保健衛生に関する最新の情報を提供するため、ホームページやメール等を活用し、会員に最新医療情報の提供を行う(例：視覚障害認定基準の改定など)。

(5) 「眼科コメディカルビデオシリーズ」のDVDを希望者に貸し出し、技術研修に役立てる。

(6) リカレント教育を行う。

(7) 臨地実習指導ガイドライン作成の準備を行う。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

- (1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定し、以後5年ごとに認定更新を行う。
- (2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「認定専任教員」と認定し、以後5年ごとの認定更新を行う。
- (3) 眼鏡レンズに関する研修を開催する。

2. 学術奨励賞に関する事業

- (1) 該当論文を選出し、第17回学術奨励賞を授与する。
2025年度に発行予定の日本視能訓練士協会誌第55巻に投稿された学術論文の、対象論文から選考し、第66回日本視能矯正学会で学術奨励賞を授与する。

3. 生涯教育に関する事業

- (1) 第66回日本視能矯正学会にて第8回認定視能訓練士セミナーを行う。
- (2) オンデマンド講座を追加公開する。
- (3) 視能訓練学育成コースを行う。
- (4) 視能障害学育成コースを行う。
- (5) 生涯教育制度の見直しを行う。

4. 公益社団法人に関する事業

- (1) 当該公益法人の運営体制の充実をはかるための取組として、公益法人制度の理解を深めるための研修会を開催する。

以上